

第4回 自動車の高度化に伴う安全確保策のあり方検討会

1. 日 時：令和4年3月7日（月）14：00～16：00
2. 開催方式：WEB 会議方式
3. 出席者：飯田委員、伊東委員、岩貞委員、加藤委員、小池委員、木場委員、
須田委員、竹内委員、廣瀬委員、船越委員
4. 議事（概要）

【事務局からの説明】

○第3回検討会における委員からの主な意見について振り返りを行った。

○中間とりまとめについて、第3回検討会以降で委員からいただいたご意見を踏まえて修正した点を中心に全体を説明した。

【委員からの主な意見】

○来年度（令和4年度）以降も、自動車技術の進展を踏まえつつ、故障コードの更なる分析を行う必要があると考える。

○自動車技術の進展に伴い、特に警告灯／表示灯が点灯した際等、ユーザー自身が車に何が起きているのか分かりづらくなってきていると感じる。一方、本来ユーザーとして車両状態を明確に把握できていることが望ましいと考えるため、ユーザーへの不具合／故障内容に係る説明等を含め、今後更にユーザーが自身の車の状態を把握できるような技術のあり方を探っていく必要があると考える。

○自動車の急速な変容、高度化やユーザーの多様化に伴い、本来ユーザー自身で対応すべき点検／整備についても、その実施が難しくなっていると考える。加えて、ユーザーを支える整備事業者としてもそうした自動車の変容、高度化への対応を進めていく必要がある。今後適切な整備を提供していくうえで、OBDの収集データ等を含む不具合情報及び故障データの共有、スキャンツール等の改善、整備に係る教育体制の構築等が必要である。また、そのための関係業界等からの支援も必要だと考える。

○自動車の変容、高度化に伴い、不具合／故障の数が増えており、ユーザーにとっては車両状態の把握が難しくなっていると考える。不具合／故障の発生時に、車両に乗車し続けて良いか否かの判断がより重要になってくるため、そうした判断が明確になるようなものにしていただきたい。

○新型コロナウイルスの影響により外国人材受入れがより難しくなっている現状を踏まえても、整備人材の不足といった課題に対しては、現場でよりスムーズ且つ的確な点検／整備ができるような体制構築に向けた検討を進めていただきたい。

- 資料の一部において「自動運転技術搭載車」と「電動車」の用語の記載順にバラつきがあるため、統一を図っていただきたい。

- 中間とりまとめ本文中の「EVの点検基準の検討」については、不要と判断できる項目については記載があるが、従来の日常／定期点検基準を基にした検討に加えて、各メーカーが、電動車向けに独自に推奨項目として設定している点検項目等もあり、新たに搭載される部品の点検について記載がないのはミスリーディングと感じる。

- 中間とりまとめ本文中の「使用過程の車両状態の理解、把握が難しくなっている」といった表現について、不具合／故障発生時以外の正常な状態においても、車両の状態が把握しづらくなっているといった誤解を読み手に与えないよう、表現を工夫いただきたい。